

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.42 2011.2.1



福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006
URL <http://kikusui-net.jp>



菊水やよい児童会館ダンスサークルの皆さん

幼稚園で雪遊び

1月11日(火)午前10時から、子育てサロン「どんぐりころころ」は、冬休み中の東橋幼稚園(菊水8条2丁目)をお借りして、1月のサロンを開きました。

幼稚園の広いグラウンドに積み上げられた雪の山から、元気にそり滑りをする子や小さなスコップで雪の迷路を作る子など、お母さんにも手伝ってもらいながらみんな一生懸命に遊びました。お天気もよい子の見方をして、昨日までの大雪もやっと止まり、気温は低かったのですが青空がのぞくよい天気でした。





11時から暖かいホールでオモチャで遊びました。お母さんたちは三々五々固まって日頃の子育ての経験や情報交換をしています。サロンに慣れた子はお母さんから離れて一人遊びをする子もいます。



この日のメインイベントは、菊水やよい児童会館利用者の子供たちによるダンスの紹介でした。昨年の10月に小学校1年から4年生の子供により結成されました。まだグループの名前もない状態ですが、ステージ衣装も可愛くそろってテレビで売れっ子の「AKB48」のよう

な見事なダンスを披露してくれました。



●**児童会館とは** 遊びを通して健康を増進し情操を豊かにするために設置されている施設で、校外生活を豊かにし、異年齢集団での遊びを通して、子供同士の交流を一層深めることを目的としています。高校生までの子供が自由に利用できます。就学前の子どもは、保護者と一緒に遊んだり、子育てサークルの活動の場としても利用できます。

菊水地区には菊水やよい児童会館(菊水1条4丁目)と東橋小・上白石小にミニ児童会館があります。菊水やよい児童会館は「札幌市青少年女性活動協会」が指定管理者として運営しています。

お年寄りと子どもの交流会

1月8日(土)午前10時から菊水地区会館において表記の催しが開かれました。

2階の大会議室は、雪の中集まった150人を超す参加者の熱気に包まれました。

鈴木民児協会長の司会で交流会の幕が上がり、菊水地区まちづくりネットワーク会議の真鍋会長から、交流会の趣旨を含んだ挨拶がありました。



ボーリングと輪投げゲーム

午前中のプログラムはミニ・ボーリングと輪投げゲームで、子どもとお



ストレッチ体操をする参加者

年寄り4人による21チームが参加しました。

ボーリングはボールを2度投げて倒したピン数を競います。うまくピンが倒れると歓声が上がります。子供が力いっぱい投げてガーターになっても、お年寄りから励ましの声が上がります。こんなほほえましい情景の中でゲームが進みます。



輪投げゲームでは五つの輪を的に向かって投げ、入った的の点数の合計で競います。どうもお年寄りのほうが輪投げに慣れておられるのか、とても上手で、子どもたちは的に近づいて投





プラバン作り

飴の提供に長い列ができていました。集会室ではコマ回し・竹割り・お手玉・折り紙などの遊びが白石バラの会の皆さんにより提供されていました。

ランチタイム

昼食はボランティアの手づくりカレーライスです。なんとお代わり自由ということで子どもたちは元気に食べていました。お年寄りもいつもの食事と違い、大勢での食事に満足しているようでした。

ゲーム大会表彰式

食事の後、午前のゲーム大会の表彰式がありました。

1等は「バラ組」でした。2等と3等は同点でしたので、ジャンケンで勝負が決められました。その結果は、「さくら組」が2等、3等は「かすみ組」でした。

5等以下のチームには参加賞が与えられました。

ショータイム



4年ぶり、元気君の登場です

げますがなかなか入りません。投げ方を教えるお年寄りの姿に、日頃ご自分のお孫さんとの交流の様子がしのばれます。

むかし遊びとバッチ作りコーナー

ゲームが終わると1階のA・B会議室では缶バッジとプラバン作りに挑戦しました。白石区子供会の指導員の説明を聞いて、熱心に工作に励みました。

やよい児童会館の先生たちによってベッ



コマ回し



カレーにっこり



お手玉遊び



1等賞、バラ組の皆さん



子どもの2等賞さくら組



地域の交流会 3等賞かすみ組

午後からのショータイムには、笑いと・夢と・元気の宅配便「白毛満(しらげみちる)」さんの腹話術が披露されました。本名は伊藤善彬(いとうよしあき)さんで、日本腹話術師協会会員です。校長先生をしておられた時から腹話術を嗜みとされ、退職後は地域活動の場でその技術を活用しておられます。

4年前にも菊水地区の交流会で技を披露されましたが、そのとき一番前で喜んで盛んに拍手をしていた子が、今回4年生になって参加しているの





を見て月日の巡りや時の移りの早さを感じました。

「いただきます・ごちそうさまでした」では、いろいろな食べ物が自分の口に入るまでを面白く説明し、動物や植物などの命を頂くことを知るべきだと教えてくれました。

「カラスのカー吉」では、ごみの分別がどうして必要なのかを面白おかしく説明



してくれました。

「時間が来たのでこれで終わります」と言うと、例の4人組から猛烈なアンコールが元気君に寄せられます。そうです、4年ぶりなのでどうしても会って話をしたかったのです。最後におまけの皿回しまで演じて、彼女たちが主役の一日でした。



「すくすく上手になった皿回し」

菊水地区の災害対策は充分か

1月17日は、1995年に6434人が亡くなった阪神大地震の日で、あれから16年を迎える。神戸市の震災復興住宅では高齢化が進み「震災障がい者」の支援など、被災地にはいまだなお課題が残っているという。

この阪神大地震のこともさることながら、私たちは、去年の12月2日の朝、札幌や北広島などで震度3を記録した直下型地震のことを、まだ忘れていない。この直下型地震は、札幌圏の地下を走る「月寒断層」と呼ばれる活断層の上で起きていたことが分かっている。

菊水での揺れは震度2程度で心配するほどではなかったが、清田区のゴルフ場では50センチを超える土砂崩れがあったし、大曲中では体育館の天井の吸音マットが外れたり、後者の窓ガラス11枚もひびが入った状態だったという。

その後の札幌管区気象台の現地調査では、清田区や北広島市で局地的に震度4に相当する揺れがあったことが分かっている。

このような地震を起こす可能性のある活断層が、札幌市周辺の地下には、①札幌断層②月寒断層③野幌丘陵断層帯の三つが確認されているという。これらの断層がいつ活動するかは、現在の地震予知能力では誰にも分からないのである。

鎮魂の祈り つなぐ記憶

阪神大震災16年
（関連記事）
復興住宅では高齢化が進み、震災障がい者への支援など、被災地にはいまだなお課題が残っているという。

住民消えぬ再発の不安

大曲中の天井材が外れたまま、清田区の土砂崩れの復旧続く

札幌市では阪神大地震の日、震度6強の直下型地震を想定した大規模災害訓練を実施した。訓練には市職員や道警、北海道電力などから計250人が参加し「月寒断層」を震源とするマグニチュード7.2の地震が起き6千2百人が死亡し、2万3千人が負傷したと想定して行った。

行政機関が地震や各種の災害に備える 備えて日常から訓練を行うことは、我々にとって頼りになり心強い限りであるが、過去の災害の経験からそれだけでは十分でないことは明らかである。

災害に備える住民力が試されることが多いのである。高齢者や障がい者、それに子供や妊産婦などの災害時要援護者に対する対応は充分だろうか。避難所や救助手段は周知されているかなどのシステムの点検もさることであるが、市内全区で最低の白石地区の町内会加入率57%の向上を図り、そのことを通じて住民力を強化していくことこそ、いま我々が行うべき急務ではないだろうか。（枝元）



編集後記 降り続く雪。高く積み上げた雪の山。毎日の雪かきにうんざりし、痛い腰をさすりながら天を仰ぐ毎日です。皆さん頑張りましょう。必ず春はやってきます。福まちにも春はやってくるのです。必ず。（枝元編集員）